

英語必修化に伴う5・6年生向けカリキュラム・教材・指導案、及び研修事業

調査の概要

◆課題認識

- ・我が国の英語力は各種調査で依然低位
- ・小学校において、外国語の「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）を重視した指導法へと切り替える必要がある
- ・現状の指導が十分効果的とは言えない

◆調査研究の目的

- 児童の英語コミュニケーション能力を以下の取り組みを通し、高めることを図る
- ・授業（カリキュラム・指導案）
 - ・教材（ICT教材を含む）
 - ・教員向け研修会の開催

◆調査研究の成果目標

- ①高学年の年間カリキュラムの作成
- ②ALTとの役割分担のある指導案やモジュールの指導案（年間70時間）の作成
- ③フラッシュカード・ICT等の各種教材開発
- ④児童が話せるようになる外国語活動の模範授業と理論を学ぶ研修会の開催
- ⑤文部科学省が示す700語程度の単語の習得計画と文字指導の学習計画を作成
- ⑥試行授業の実施等による効果検証

◆連携先

大分県教育委員会、名古屋市教育委員会

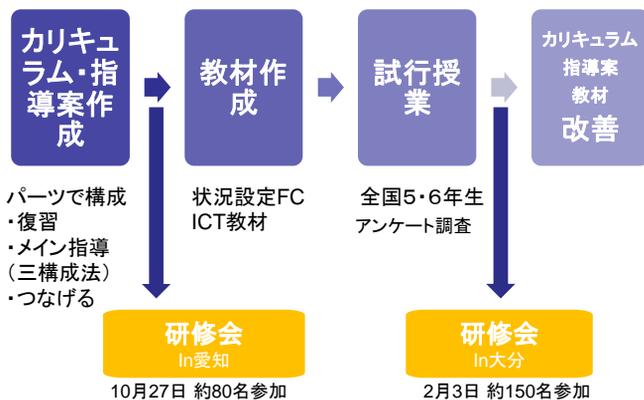
取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①三構成法による全時間の指導案の開発
 - ・文部科学省のカリキュラムに対応
 - ・「復習」「メイン指導（三構成法）」「つなげる指導」の明快で柔軟な授業構成
- ②状況設定フラッシュカード・ICT教材の開発
 - ・場面の設定と単語のインプットが確実
 - ・授業準備が大幅に短縮できる教材
 - ・①②を活用した全国での試行授業
- ③理論と実践を伝える研修会の開催
 - ・知識や理論に加え、実際に参加者が実技・技能を学ぶことができる形式
 - ・①②を含む充実した研修会資料

◆成果

- ・研修会：1）計2回、200名以上の参加者
2）高い研修会の満足度（第1回72.3%、第2回72.4%が非常に満足と回答）
- ・試行授業：全国の教員5・6年実施



理論：三構成法

- ①単語練習
- ②状況設定・ダイアログ練習
- ③アクティビティ・ゲーム

今後の課題

◆さらなる研究と効果検証（PDCAサイクル）

- ・研究範囲：新教科書を活用し、小学校全体を通して行う一体的な研究の実施
- ・研究深度：より精度の高い科学的根拠のある検証の実施と中長期の教育効果の検証の実施